

# 黒部市総合振興計画審議会 第1回 第1部会（自然共生）会議録

日時：平成18年11月28日（火）13：30～15：30

場所：黒部市民会館101会議室

出席者：委員7人（欠席1人）、専門委員2人（欠席1人）

## 事務局

定刻少々前でございますけども、委員の皆様が揃われましたので、ただいまから黒部市総合振興計画審議会第1回第1部会を開催させていただきたいと思います。本日は委員さんそれから専門委員で国交省の委員さんがご欠席という案内を受けております。

また、専門委員で立山自然保護事務所の鈴木委員が10月1日の異動で代わられましたので、今回から岸委員が出ておられます。皆さんにご紹介いたします。

それでは初めに國香部会長よりご挨拶をお願いいたします。

## 部会長

日本黒部学会ということで、この審議会委員を務させていただきます入善高校の國香と申します。自然と共生という部会に入れていただいたのは、たいへん相応しかつたかなと思うわけですけど、この部会長ということについては誠に分をわきまえていないという気がしてるわけですけども、普段子供達に何でも経験だといっている手前もあって、観念したという引き受けさせていただいたということです。行政というのは市議会の議決とか市長の判断とかがっていう面で進められるものだと思うんですけど、この審議会というポンプで市民の声を吸い上げてという、まあそういうことだという具合に理解しています。なかなかまとめ役というのは荷が重いのですが、ポンプの呼び水をやるくらいなら何とか務まるんじゃないかと、その辺でご勘弁していただきたいと思っております。

部会は2回あるようですが、活発に意見が出されることをお願いいたしまして挨拶とさせていただきます。

## 事務局

ありがとうございました。それでは早速議事に入りたいと思いますけれども、審議会条例での定めによりまして、部会長が会議の運営にあたるということになっております。

これからの進行を國香部会長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

## 部会長

それでは議事に入りたいと思います。1時30分ですが、3時とか3時30分とかいうあたりを目処に進めたいと思いますのでよろしく申し上げます。

それでは次第に従って進めるわけですが、報告事項、協議事項、その他という具合に進めてまいります。

まず報告事項ということで、これまでの経過の方を事務局から説明願います。

## 事務局

-----資料に基づき事務局から説明-----

## 部会長

はい、ただいまの報告事項について何かご質問などありましたらお願いします。

## 委員

この21日から27日にかけて各中学校の校下ですね、タウンミーティングの開催をされて、何かそこで生徒さんから特徴的な何か要望なりですね、これはもちろんまちづくりに向けての提言を受けるためのタウンミーティングだと思いますから、何か特徴的なことがあったら知らせていただきたいと思います。

## 部会長

はい、ではタウンミーティングについて簡単に聞きたいということですね。

## 事務局

それでは 委員さんのご質問にお答えさせていただきたいと思いますが、中学校校下となっております、対象としたのはどなたでも結構なのですが、生徒という意味じゃありませんで、一般的な人も含めての全体でということで、お話させていただきました。こちらの方では、今後10年間の総合振興計画の策定を見据えてということで、2つの大きな課題について少し市長の方から提言いたしまして、それぞれ意見を求めたということがあります。一つについては、交流人口の増加というところで、新たな地域活力を創造するためということで、新幹線でありますとか道路でありますとか、主に都市基盤を中心に一つの課題とさせていただきました。もう一つは安心・安全で暮らしやすいというような地域体制の強化というふうなことで、病院あるいは地域医療体制の充実、それに消防庁舎、市役所の庁舎の建設等についてご提案させていただいて、会場の皆さんから意見をたくさんいただいております。その内容につきましては、昨日の実は夜9時半頃までかかっておりまして、結果については後日取りまとめまして皆様方に報告申し上げたいと考えておりまして、概ねそういった内容で会場の皆さんから1会場だいたい10人ぐらいのご質問、質問の数とすれば1会場20人ぐらいあったと思います。そういった形で開催させていただいております。結果については後ほど取りまとめお示ししたいというふうに考えております。

## 部会長

他にどうでしょうか。

## 委員

2点、先程部会長の方から部会2回ということでしたが、2回で協議を終わらせるということを決まってるんでしょうかということが1つと、それとタウンミーティングというのは、パブリックコメントの一環だと思うんですが、その他どういう形で今後市民のご意

見や提言を求めていかれるのか。その手法についてお伺いします。

#### 部会長

はい2点あったと思いますが、まず部会はやはり3回目とかがってということが想定されていないということで、ちょっとその辺事務局から説明願います。

#### 事務局

今回の部会開催にあたりまして、それぞれ部会長さんと打ち合わせをさせていただいたわけですが、その時申し上げていましたのは、部会長の方から2回というふうなお話でございますが、それはあくまで前々から申し上げております今年度中に中間報告として審議会で取りまとめをしていただくまでに、2回ということでございます。来年度正式な形で基本構想を議会に上程し、あるいは基本計画前期のものを煮詰めていくわけですが、あくまで2回というのは本年度の今のところの予定だというふうにご理解をいただきたいと思います。

それと意見をどうやってこのあと進めていくかというふうなご質問だったと思いますが、まずこの振興計画に対しましては、6月から7月にかけて市民アンケートを実施しております。また、この審議会委員の皆さんの構成につきましても市民、各団体からのご意見をいただくことと合わせて委員に市民からの公募を願ったというようなところがまず1点というふうに思います。今後、どのように進めるかということにつきましては、今年度中に基本構想の中間報告を取りまとめた段階で、通常ですと決まったものに対して市民の意見を聞くというやり方であったわけですが、今回先程おっしゃいましたパブリックコメント制度、市の重要な計画なり条例なりそういったものを定める際に、広く一般市民の意見を聞くということで、基本構想の中間報告がまとまった段階で、広く市民からそのまとまったものに対しての、決定する前に再度の意見を聞きたいというふうに今のところ考えております。その他にも普段から意見箱の設置でありますとかホームページへお寄せいただいた意見に対しては、回答し、公表するなどの手法を使って市民からの意見を反映させていきたいというふうに考えております。以上です。

#### 委員

意見をいただくにはやっぱり情報がないと意見出せないと思うんですが、その情報開示はどのようなやり方で、市民に対する開示をされるんですか。

#### 事務局

今考えておりますのは、市報あるいはそれぞれの公共施設、あるいは公民館等、そういったところに構想の中間報告を閲覧できるようなそういうやり方、それとみらーれTVと、それと市のホームページに全体計画を開示しながら意見を寄せていただくと、そういうような手法を当面考えております。

#### 委員

はい、分かりました。

部会長

他にどうでしょうか。

ないようでしたら協議事項の方に移りたいと思います。全体会の前に部会を2回やるということですが、1回目は主に説明を聞いて質問なりを行うと。2回目で議論して結論的なものを持っていきたいと、まあそういう段取りだと思います。

それではまず協議事項の(1)それから(2)ですね、施策中分類、事業メニューですが、全体について事務局の方から一括して説明をお願いいたします。

事務局

----資料；2、資料：3に基づき事務局から説明----

部会長

はい、今ほどあったようにこの資料3の1ページ目、これがこの「自然共生部会」の引き受けた部分ということになるようであります。但しこの次第にあるように、協議事項(1)ですね、施策の体系、資料2これについてまず協議いたします、資料3は後で行いますから、この資料2についてまず協議したいと思います。

委員

お聞きしますけれども、関連というか、旧黒部市が第7次、いわゆる黒部市総合振興計画というのがでてたんですよね。その中身というのが平成15年3月に策定して15年～19年の5年間を前期としていわゆる振興計画の実施をするという形になってるわけですね。後期が平成20年から24年ということになってただけけれど、ちょうど区切りのいいところで宇奈月と合併してるわけですね。だから今までの黒部っていうのは、やっぱり49年から市になってるから伝統的に第7次黒部市振興計画というものを作ってそれに基づいてやってきたわけですが、僕はホームページで全部拾ったんだけど、相当膨大な資料になってるんですけども、これとのいわゆる関連性っていいですかね、これをやっぱりそれなりにつないだ形での新しい新市になった黒部市の将来像を求めているのか、その辺を捉え方としてご説明していただきたいと思います。

部会長

はい、それでは旧黒部市から新黒部市へ変わった時の整合性ということで。

事務局

まず、合併協議が進んだ段階で、合併協議会で新市建設計画というものを策定しました。その新市建設計画というものは、合併前のいわゆる黒部市の第7次総合振興計画あるいは第3次宇奈月町の総合計画とそういう基本的な考えですとか理念を継承した形で新市建設計画というものが策定をされたということになります。合併した場合には、その旧の計画は消滅をするわけですが、そういったことでその考え方なりは新市建設計画に受け継がれておりますし、その新市建設計画をベースに今新しい市の総合振興計画を作りまし

ようということになっておりますので、その辺の関連はご理解をいただきたいと思います。

部会長

よろしいでしょうか。

委員

はい。

部会長

他に何か。

委員

これ全体的なメインということで、ちょっと僕は個人的に非常に疑問に思ってるのはね、どう理解していいのかわかる、いわゆる名水の里と。まあ水が黒部の一つの大きなシンボルになってるんですけどね、代表的な生地の自噴水、だいたいあそこには18カ所くらいあるわけですけども。あの水とですね、いわゆる国の指定している飲料水ですね、飲料水っていうのは本来は厚生労働省が作成した水道法に基づく飲料水と黒部の水との関連性ですね。あれはどう捉えていいのかわかる非常にここでは水を活かすということになってるんですけども、水道法上からいってあれは飲料水じゃないんですよ。なぜかといったらまあ塩素が入ってないと、殺菌剤が入ってないということなんだけれども、その辺が非常にちょっとどう理解して整理していった方がいいのかわかる。非常に黒部の水はおいしいと。おいしいということは飲んでおいしいということで、そのまま飲む水だという理解の仕方っていうのは一般の人は他所から来た人はみんなそういうことで、例えば荻生にある箱根清水なんか水を汲んでいられる、そこで飲んだりしておられるけども、一方、法治国家で厚生労働省の水道法の飲料水ということになると、これはそのまま安全に安心できる水だと。いわゆる胸を張って言えない、そういう部分があるんじゃないかなと思ってるんです。非常に矛盾を感じているんですけど、その辺何かお分かりの方説明を。

部会長

それは国の法律の問題になってくるので、ここではちょっと難しいですかねえ。

委員

部会長、このまちづくりの基本方針の中に共生のところにですね、流域を育んだ水と緑の文化を創造するっていう、何か分かったような分からんような何かあるので、具体的にはどういうようなことをイメージしてるのかわかる。水と緑の文化っていうのはどういうことなのか、ちょっと分からないんですけども、分かるような分からんような。

部会長

そうですね。

## 委員

わかるような気はするんですけども、例えば。

## 部会長

部会のテーマみたいなところですね。ちょっと説明いただけますか。

## 事務局

ただいまのご質問ですけども、文化っていうのは広く捉えてでご理解いただければと思います。詳しい内容につきましては、この新市建設計画の43ページに新市のまちづくりの基本方針ということで、3つの基本目標があるわけですけども、その一つの中にあるわけです。こういったことをイメージしながら水と緑の文化というふうに、どれを捉えてどうなのかといわれると、なかなかはっきりといえますか、全体を捉えてということだということでご理解いただければというふうに思います。

## 部会長

よろしいですか。僕としてもまずいただいた時に、これはその事業メニューっていう部分がどうもこの重なっていないというか、それぞれの事業メニューが各部会に振り分けられている形になっていて、例えば水っていうものが全部この第1部会にあるわけじゃなくてというようなそういう形になっています。他に何か。

## 委員

これは資料2の1ページ目の方についてでしょ。このステップ1の資料3の方じゃないんですね。1ページ目の資料2の方のですね。

## 部会長

そうですね。もし資料2の方で特にないようでしたら、資料3の方に移りたいと思いますが。

## 委員

特に質問とかじゃないんですが、意見として先程も情報開示のこと言いましたけども、基本理念のところでも市民一人ひとりがまちづくりの主役っていうことで書いてありますので、そうであるならばやっぱりいろんな機会を捉えてですね、情報開示して、またそれに対していろんな意見を出していただけるようにすることを、そういう機会を作らないと、そういう機会を提供しないとですね、なかなかここに書いてあるような主役として育っていかないとしますので、なるべく情報を提供する。そして情報を吸い上げるというような取り組みはぜひしっかりとっていただきたいというのが一つと、あと基本目標が3つに分かれてますけども、まちづくりの基本方針で、その最初のまちづくりテーマ「大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部」とあるように、それぞれ何かリンクはしてるんですね。共生してる新しい黒部市だからこそ活力があって安心があるとか、そういうことなので、我々も見方としてあんまりこう縦割りというか分断した捉え方じゃなくて、全体

としてのこのいわゆるシンフォニーといいますかね、調和がとれている、そういうような捉え方で考えてった方がいいかなあとと思いますけれども。

部会長

はい、ありがとうございました。

委員

あの今の件についてちょっと余談ですけど、市のホームページには、今情報公開となると、ほとんど何かホームページにね、県なら県のホームページ見るとだいたい細かいところはみんなホームページには載せられてるわけです。黒部市でもほとんど出てるわけですね。いろいろな面で。ただそのホームページを見る人が何割ぐらいいるかということになると非常に難しいところなんだけれども、これからはね、それこそ自然環境というかここにも項目にあるように紙を使ってね、あれするよりもホームページで見た方が、環境に優しくなるという面もあるんじゃないかと思うんですけど、結構出されてるでしょ、市のホームページにね。今でみんな出てますからね。そういう点でいわゆるちゃんとしてね、これからは市のホームページで情報公開をしてくというようなスタンスなのか、いろんな市報とかを出せばやっぱり紙がいる何ページかね、必要になってきますから、その辺がリサイクルをやればいいかも分からないけれども、できるだけやっぱり紙を少なくしていくというのも環境にやさしい自然との共生というものにつながるんじゃないかという気がします。ちょっと余談ですけど。

部会長

はい、ありがとうございました。では資料3の方ですね。協議事項としては(2)の方へ移りたいと思いますが、はい。

委員

まずこの部会で出す成果というのは資料3を出すんですか。資料4はそのための参考資料ですか。それとも例えば新市建設計画を文章として出して、今回は報告としての資料の3ということになるんでしょうか。

部会長

では、お願いします。

事務局

先程申し上げましたとおり、資料4というのはこのシートはあくまで資料3のバック資料というふうにお考えをいただきたいと思います。資料4を取りまとめたのが資料3になる部分だというふうにお考えいただきたいと思います。この部会として、この資料3の方をまずは事業メニューの整理という点、あるいは重点事業の位置づけという点をご議論いただきたいわけですけども、部会での議論取りまとめ等の推移を見ながら前回1回目の審議会の方で基本構想の素案を提示させていただいておりますけども、最終的にはその部分

を完成に近づけていきたいということでございます。従いまして1回目の審議会で素案を提示をさせていただいたわけですが、あくまでその意図は審議会委員の皆さんに基本構想というものはいかなる形になるんだということをイメージしていただきたいということで、あえて1回目からご提示をさせていただいたわけですし、市役所の中でもいろいろと議論をしておりますし、修正も加えてきたところであります。従いまして一度提示させていただいた素案の部分をかなり修正しなければならないところがございます。そういうことでありまして、この資料3を整理していただきながらその基本構想の素案を固めていきたいということでご理解をいただきたいと思っております。

委員

では答申の際に出てくるのは、この資料3のこれではなくて、今の基本構想素案の17ページ・27ページのようなものですね、それをこう何ていうか協議していくための資料、そのための資料ということですね。

事務局

はい。

委員

次回のときに何か文章的なものを出してこういうふうにしたいと提案されるのですか。

事務局

こちらの資料も今回結論をあげていただかなくていいというふうに申し上げておりますし、ただ今日のご意見を踏まえまして、基本構想の素案の部分は、次回の部会の前に事前に委員の皆さんに送付をさせていただくと。課題の部分を詰めた上で修正も加えた上で再度ご提示をさせていただきたいというふうに思っています。

部会長

それは今年度の間にそこまで行くということでもいいですか。

事務局

こちらの事務局の考えとして、今年度中に基本構想の中間報告をするというスケジュールでご説明をしております。では基本構想の中間報告をする際にまだこの部分はこれから議論するとかという形はあまり成り立たないものではないかなということで、ほとんど完成型に近い形のものを中間報告させていただくことになろうかというふうに思っています。基本構想の部分ですね。しかしながらそれはあくまで中間報告ですので、翌年9月の議会上程までの間、公表の後のパブリックコメント等も踏まえながらさらに修正もあり得るということで最後に議会上程時には最終完成型で審議会から答申をいただきたいということでございます。そういうふうに事務局としては考えております。

部会長



はい、私の方からも一つ確認というか。自然と共生しとか、水と緑といったときに、黒部市としては黒部川なしには語れないと思うわけですが、では黒部川ということ考えた時に、何といっても一番大きいのはダムがあって発電をしているということです。もちろん治水があって安全という考え方もありますし、あるいは地下水とかもあるわけですけども、10年というスパンではとりわけの問題にならないとは思いますが、100年というスパンを考えた時に、この黒部川の発電事業というのは一体どうなっていくのかなあというのが、僕は地質岩石やってる関係もあって非常に大事なしかも黒部市としては必ず視野に入れておかなければならない問題だというふうに思っているわけです。この辺について現状として一体どういうものなのかちょっと伺いたいなあと。あるいはこの中で何かそういう部分があまり見えてこないんですけども、今日難しいとすれば次回でもと思いますがいかがでしょうか。

#### 事務局

今あの実は専門の 専門委員が国土交通省の方から来て出られるんですが、今日はちょっと欠席なものですから、その方がおられれば非常に的確な答えができたかなあと思うんですけども。実はダムの耐用年数が100年とかいうことになってたりして、あるいは鉄砲水の問題もございまして、まあ耐用年数があるというふうな話は聞いたわけですが、ただ黒部として考えた場合、今、総合土砂管理というような考え方があります。それでダムにつきましても、例えばいわゆる山が崩壊して出た何といえますか岩石やそういったものがダムを埋めていくわけなんですけれども、それについてはご承知のように連携排砂という形で出平ダム・宇奈月ダムでそういったものを排砂しながら進めている。そういう意味ではこれこそが一つの例かと思うんですけども、河川全体の中でどうやって自然に近い形でそういったエネルギーをとること、あるいは自然状態を維持していくこと、そういったことをどうやって維持していけばいいのかということで、実は考えようとしているのが資料3の方の砂防事業というところで、2番目の方のメニューにあります。黒部川総合土砂管理事業の促進というような事業メニューがございまして、こういったところでそういったことがもちろんその完全なものっていうのは今できとるわけでは全くございませんけれども、そういった方向性でできるだけ自然に近い形で長くそういった、例えば発電なら発電の何ていうか使えるようなそういった管理の仕方というのがないかということで、今いろいろ国土交通省さんもやっておられるし、黒部市の方につきましてもそれらについて強かに推進をお願いしたり、協力したりしているということだというふうに思っております。ちょっと答えにはなっていないかもしれませんがよろしく願います。

#### 部会長

はい、ありがとうございます。何か他に、 委員。

#### 委員

先程ちょっと質問したんですけども、3の方で保健保養地としての整備・活用ということについて。

## 事務局

あのいいですか。森林とはそもそも存在自体が人に安らぎを与える心の緊張を和らげる効果があるということで、多数の人が登山とかハイキングとかキャンプ等で森林を訪れております。その施設と遊歩道の管理といいますか整備のことをいっております。

## 委員

具体的に言ってもらったら、例を、分かりやすいんですけども。  
嘉例沢の公園とかを例にして。

## 事務局

例えば嘉例沢の森林公園等と思っています。

## 委員

そういうふうに言っていただくとちょっと分かりやすいですけども、何を具体的に言っ  
てらっしゃるのか。

## 委員

私は保養とかこういうその保養地としてのどうのこうのってこういうふう文章とい  
いましょうか文言がこう出てるものですから、私自身が、というか宇奈月温泉、温泉と保  
養地とかそんなことも考えてるわけなんです。私自身が実はドイツのバーデンバーデンに  
行った時に保養地なんです、そこは温泉保養地そういうふうになってたいへん美しい静  
かな町で、医療とかというよりもリハビリとか保養地とかということで、ドイツの方の制  
度では医療保険さえ使われておりましたたいへんいい町だったなあと。それでこの部会は  
水っていうふうになってますが、この水を温泉部分も含めて少し大きく考えていただけな  
いかなあと。そうしますと温泉の開発っておかしいんですけども、温泉を水というふう  
に考えていただきますと温泉をいかに医療とか療養とか保養とか、それでそこらあたりを  
もう少し健康とかそういうことで大きく考えていただくと、もう少し宇奈月の方も宇奈月  
温泉自体がもう少し幅広く捉えていけるんじゃないだろうかと。現に長野の鹿教湯温泉な  
んかは東大の方の研究所になってますね。その辺考えて富山も薬科大学・富山大学もあ  
るんですが、それから黒部の市民病院もありますので、その辺を少し含んでそういうこ  
とを研究・開発していただくと、今後何か発展してくんじゃないだろうかと、私自身ずう  
っと考えてるもんですから、その辺でちょっと保健、保養地って書いてあったもんですか  
ら、それともう少し関連をつけていければ、川も大事なんですけども、川と同時に森を  
守るっていうことも大事だと思いますし、宇奈月温泉とそれから新川牧場とか、今話し出  
ました嘉例沢とか、それから阿古屋野とか、この辺りを例えば私はケーブルでもずう  
と結んでいただくと、特に新川牧場辺りのあそこからみる富山湾の眺望なんか素晴らしい  
ものがありますので、その辺も考えて今後この1部会は観光とちょっと離れておりますけ  
れども、そういうことも関連づけながら少し何か水・温泉ていうことをちょっと考えてい  
ただけましたらその温泉を飲んで宇奈月温泉の研究・開発といいいましょうか、温泉兼避暑

といいたいでしょうか、何かそういうことを将来に亘って今後それこそ 100 年以上経って考えていっていただければまた海外へも向けてですね。ロシアも随分経済成長しとりますので、富山県は環日本海ということで、随分力を入れてるようですので、例えば療養とか医療とか保養もロシアと航空路線もありますので、そのあたりも少し海に向けても発展してくれるように考えていければいいなと思ってちょっとお話をさせていただきました。

部会長

特に宇奈月温泉だと思いますけど、その辺りとこの森ですね、あるいは 2 ページになってしまふんだと思いますが、観光であるとか、医療はどこに入ってるんですか。

委員

全部リンクしていると思いますけどね。

部会長

そこら辺のことについてどうなんでしょうか。事務局の方で何か。

委員

発言したはいけなかったかもしれませんね。

事務局

委員さんのおっしゃることはよく理解できるつもりであります。ただ何ていうかこういう体系からしますと、施策の区分があってその枝葉で中分類があって事業メニューがあると。でもその部分に限って考えなくちゃいけないかということそうではありませんが、ほんと広い意味で複合的に事業を発展させるということはそういうことで前へ進めなくちゃいけないというふうに思っています。ただ今の方は森林環境の保全と活用という中でこの位置付けということでございまして、むしろ観光の部分の方でそういった議論を深めていくということの方が適当なのかなあというふうに思うわけですが、いずれにしてもこの部会とどこの部会に重複して進めていけなくちゃいけないという項目がいくつもありまして、ぜひそんなようなことも念頭に置きながらこれからの事業メニューを進めていきたいということでご理解いただきたいと思います。

委員

ぜひ今後の 100 年に向けてぜひお願いいたします。

委員

よろしいですか。確認したいんですけど、行政がやるとどうしても部署というかそういう縦でやりますよね。でもこうやって民間の方が入って意見を出していただくというのは、本当に全くその違う視点で、こう行政だと縦にこう全然関連付けがないものをネットワークで結びつけて、今までこうあまり価値として見られなかったこの地にある資産をですね、ものすごくこう価値を高めてくれることになると思うんで、やっぱりこういうご意

見をどんどん出していただいて、それをうまくこう文言におとすとかが、それは事務局でやっていただきたいんですけども、やっぱりこれは他のところっていうか、そういうのはやめた方がいいと、こういう場合はある意味関係ないのも実は関係あることがあるし、その黒部市の価値を高めるために非常に有効な意見だと思いますので、ぜひそういったものも逆に大事にさせていただきたいなというふうに思います。

事務局

分かりました。そのようにさせていただきます。

委員

もう一つ。事務局の方で既にこの重点項目が挙げてありますけど、重点項目を挙げた理由っていうのは、説明していただけると。この黒印ついているものがそうなんですよね。その説明をちょっといただけるとありがたいんですが。

部会長

重点項目に入る前にちょっと他のまだご意見言っておられない方おられますので。

委員

ちょっと質問になるかどうかあれなんだけど、最終的にはそうするとこの金額的なものはどうなるのかね。

事務局

事業費とかあるいは財源ですか。

委員

年間の市の10カ年なら10カ年の年間の金は分かりますわね。3百何十億がありますでしょ。そういったものの使い道なんだけど、これ今この事業メニューが出て最終的に先程の素案の方ですね、こういう形で答申するということになると、金の方というのは5カ年でどれとどれとやるとかってそういうのはないんですか。どういう形でまとまるんですか。

事務局

前々から審議会委員の方々から、まずその例えば10年スパンでどういう事業に取り組むかとか、あるいはその中で何を重点事業として位置付けるかという議論をする前に、当然財政見通しというものを示すべきだということはお聞きをしております。本来そのような形にすべきだというふうにも思っておるわけですけども、新市建設計画を作成した際に、いわゆる財政見通しというものを立てております。ただなかなかそのまま出すというわけには今の状況からいいまして、できにくいということと、審議会委員の皆さん方に財政見通しをお示しする際は、これはもう生半可な中途半端なことでお出しするわけにはいかないということで、できるだけ早くお示しをしなければならぬというふうに思っておるわけですけども、なかなかそこには至ってないという状況であります。一方でこの今事業メ

ニューの洗い出しをし、今それぞれの部会ごとに整理をお願いしとるわけですが、それらの中には、全体事業費としていくら総事業費としてかかるかということがいまだに分からないものも数多くございます。財政見通しも分らん事業費も分からないで重点事業とか位置付けられるかという議論になろうかと思いますが、今後 10 年間の中ではいわゆる特例債の使い道を含めまして、交付税というものがどういう形で推移をするかということについても不透明でございます。なかなかその 10 年間を見越した上で、どういう状況で財政というものが推移するという事は、今の段階ではなかなか見えにくいわけですが、ただ 10 年間を見据えているんなやりくり、いろんな工夫をしながら、これらは 10 年間で取り組めると。それは中には完成じゃないものも完成できないものもあると思います。ただ 10 年の間で頭出しとか何らかのアクションが起こせるというものについては、事業メニューの中に拾い上げているわけでありまして、そういう考え方で今回事業メニューの整理をお願いできないかということでございます。そのあとの段階で前期の基本計画 5 年間、後期の基本計画 5 年間、その割振りは本当に非常に大きい協議の中心になろうかと思っておりますが、少なくともそれまでには明確な財政見通しを示しながら、またあるいはある程度事業費的にも全庁各課でさらに精査を加えながらお示しをした上で、その前期にどの事業を盛り込もうという次の段階での議論をお願いしたいというふうに考えております。

#### 委員

何かちょっと見えてこないなあと。ちょっと質問の言い方が悪かったんでしょうけど、非常に立派なメニューがあるものだから、これをやるということになると、たいへんなことだなあとと思ってね。

#### 部会長

ではその重点事業の方についてお願いします。

#### 事務局

重点事業の位置付けとしまして、市の考え方として先程から経過報告の中でも申し上げてきたとおり、まずは課レベルで所属長が判断をした上で重点事業というものを位置付け、さらに部長さん方で構成をしております策定委員会で議論をいただいた上で、今回提示をさせていただくとということでもあります。それこそ先程言いましたように、今後 10 年間を見据えた上で、こういったものを重点事業として位置付けた上で、今後進めるということでございますけれども、今その基本構想の中間報告に向けてのいわゆる重点事業として市が示すと、市民の皆さん方に示すところへも当然リンクをするということでお考えをいただければというふうに思います。

#### 部会長

はい、お願いします。

#### 委員

具体的にそれぞれこれがなぜ重要なのかっていう説明をしてもらいたいのですが。

## 事務局

あっそういうことですか。それは失礼いたしました。

どうもすいません。ちょっといろいろ打ち合わせしておりましたけども、実はその目安的に、いわゆる各課検討の中で、重点事業っていうのはどれかということで丸をつけてもらって、だしてきているわけなんですけれども、これを集約したものが実は整理表の中の事業メニューの黒丸であるということでありまして。それで例えば環境保全・美化対策事業というところで、水資源の保全というものと黒部峡谷の自然保護と環境保全の推進と黒丸2つがついとるわけですけども、その他の事業がじゃどうだというふうな話になりますと、見方によってはいろんな丸のつけ方があると思いますけれども、水資源の保全というのは、黒部市の実は非常に重要な今までもそうでしたし、これからも非常に重要な事業、施策だろうというようなことで、黒丸がついております。それから黒部峡谷の自然保護と環境保全の推進ということにつきましても、これはやっぱり自然というもの、それから例えば黒部川のいろんなものありますけども、こういったものをやっぱり進めていくというような視点に立ちまして、どうやって今までの環境を保全していくかと。ある意味では人間がちょっと力を自然に対して加えすぎることかなあとというきらいもないですけども、しかしながら我々が安全に自然と共に我々が生きていくためには、そういったことも非常に重要なんじゃないかというような観点から、2つの黒丸がついてます。

それから黒丸の森林施業推進事業の中で、森林居住環境の整備というのに黒丸がついております。その中で、カッコして里山再生整備事業の推進ということで、これは実はこの事業が該当しますよという意味で、カッコ黒丸になっとるわけですけども、実は最近のいわゆる過疎化とかいうことによりまして、里山に非常に何ていうか荒れてきている。もちろん生活様式が変わったことも気にしとるんですが、ここへ来て人口減とかそういった意味で里山というのは非常に荒廃してきて、そして例えば有害鳥獣とか自然の動物達の何ていうか侵食が、人間側への侵食が非常に強くなってきてると。こういうようなことから当市においてもそういった非常に顕著にみられてきている。そういうような今後10年間の中で非常に森林居住環境の整備というものが非常に重要になってくるんじゃないかというような観点から、これは黒丸がついております。

それから水環境保全整備事業ということでございます。これは水博物館事業の推進というものに黒丸がついております。この水博物館につきましても、ご存知のように旧黒部市、これは昭和58年代ぐらいから水の博物館という形で県事業としてやって下さいということで、重要要望に入れながら運動を進めてきたところでございますけれども、平成6、7年ぐらいから拠点都市という国の一つのそういう事業がございまして、その指定を受けまして入善と一緒に博物館を作りましょうと、こういう話になってました。そして現代的にはフィールドミュージアムという形で、新川2市2町このエリアの中で、フィールドミュージアムというものを形成してこうじゃないかと。そしてその中核施設を例えば黒部市がどうやって作っていくかっていう現在その可能性を追求しとるわけですけども、そういう意味では例えば自然と共生し水と緑の文化を創造するまちづくりと、非常にこれがいわゆるフィールドミュージアムとして完成型になってくれば非常にいいのじゃないかという

ような意味でここに黒丸をつけてあります。それから水資源利活用推進事業ということで、水を活かした企業誘致活動の推進ということでございますが、どうやったら水を活かしていけるのかという、非常に水はいいんですが、人がどんどん減って人口が少なくなって活力というものが失われていくわけございまして、我々が自然から与えられたそういった水、こういったものもある意味では保全をしながら許される範囲の中で活用して、我々の地域っていうものの活性化を図っていこうじゃないかということで、それはすなわち文化の創造であると、地域の文化も創造であるというような観点にたちまして、その水というものについてここは黒丸がつけましたというところであります。

それからバイオマス利活用事業ということで、下水道汚泥のバイオマスエネルギー利活用の推進ということで、これはそれらの4つの中の一番重要でございますという意味で、黒丸がつけてあるわけでございますけれども、これにつきましては自然エネルギーといいますが、いわゆるどうやって活用していくかというようなことが非常に現在テーマになっておりまして、この中で下水道汚泥というものについて具体的にどうしても進めていかなければならない時期にさしかかってきてるわけでありまして。生し尿の処理を広域圏で取り組んでおりまして入善町の板屋で処理したわけですが、この施設が古くなりまして、そして集落排水事業の汚泥とか、それから何といいますか合併浄化処理槽の汚泥とかそういったものの処理は各市・町で自ら処理するというようなことになってます。生し尿については、加工して入善の下水道で処理するこういう計画になっておりまして、22年からその作業が始まる。そしてこういったものにつきましてバイオマスエネルギーを再利用すれば非常にそういう意味では環境にいい形での処理ができないかということで検討をしております。この非常に重要な事業として位置付けしておりますので黒丸がついているということでありまして。この黒丸については以上です。

#### 委員

水の博物館の拠点施設っていうのは、箱物を造るって話なんですか。

#### 事務局

その話につきましては、実は2市2町と申しましたけども、県も加わって検討に入っております。その中で非常にそのフィールドミュージアムっていうのはあくまでも**フィールド**であって中核施設がまず成り立たんというんじゃないかという議論もあるかというふうに思ってるんですが、ただあるだけでは来た人にも何も分からない。ある意味ではそのフィールドミュージアムを紹介するような施設が必要なんじゃないかと。中核施設といたってそんなに巨大な施設を考えとるわけじゃございませんで、そういった新川にある水の文化なり水の利用のされ方、あるいは状態こういったものを現地で見いただくための何かオリエンテーションといいますが、何かそういうふうなその説明ができるところ、あるいはそういったものがだいたい大まかに概要として掴んでいただけるような施設が必要じゃないかということで、努力して考えとるところであります。そういうふうな形で進めていけないかということで。

#### 委員

それは水博物館ということで、実際今試験的に活動してますけど、それはまた別物ですか。

#### 事務局

今現在新川広域圏の方で事務局となって動いてもらっておる水博物館の関係です。

#### 委員

じゃ中身はまだ詰まってないでしょ。水の駅という構想もあるしね。フィールドの中に。

#### 委員

いや今実際新川地区である拠点拠点をガイドしながら回ってる、そういう活動やってるんですよ実際。

#### 委員

さんが講師になってね講習会開いたりやってるからね。ただ構想はね、ただ箱物は駄目だと。黒部川扇状地全体に特に力入れておられるのは長井真隆さんがね、水の駅と。道の駅というのは県内にもあるんだよね、道の駅っていうのは。だけど水の駅を何カ所かね造ってというあれだけど、それもまだ煮詰まってないんだと思う。

#### 委員

この水博物館というのは、王生さんの方が中心になって、それでお客様呼んだりしてガイドしながら合口用水とか発電所とか生地の湧水とか沢水とかそれと扇状地関係をガイドして回って、そういう活動を実際なされてるんですよ。

#### 委員

活動はなされている。基本的にはね、どういうものをやるかということは活動は今もずっと続けておられるんでしょうね。だけど、どういうものをやるか、当初はその今説明あったように、箱物を造ると水博物館を造るということで、黒部市と入善とが積み立てをしてたんだよね確か。過去、平成5、6年頃積み立てしてたんだよ、県も半分ぐらいもって。

#### 事務局

積み立ての事実はありません。ただその年々の費用について県それから入善ということで費用を出していたと、まあずっとやってきました。

#### 委員

黒部市の予算でなかった。500万で250万ずつ入善と黒部が250万ずつ出した、何年間か続いた、それは没になったと思うんだけども。

#### 委員



この今ここにメニューに取り上げてある水博物館事業っていうのは、そういう箱物を造ろうという計画なんですか。それともフィールド活かした解説を、解説活動をやるっていうそういう方法なんですか。

#### 事務局

これは新川2市2町をエリアにしたフィールドミュージアムを発信しようという考え方です。ただその中で、黒部市の考え方としては、いわゆる先程申しましたような中核施設といいますか何かやっぱり来られた方に全体の概要が分かったり、どうやってそこへ行けらとか、そういった施設が必要であろうと。ただその電子的に例えばそれぞれのホームページか何かで見ただけで済むものではないんじゃないかと。それをいろんな地域の情報を集めて整理して、また情報を発信するという、そういう機能をやったりどこかに持たないと、フィールドミュージアムっていうのはなかなか分かりづらいんじゃないかというのが我々黒部市としての考え方です。それは2市2町になりますといういろんな考え方あると思います。

#### 部会長

だいぶ細かいところまでできていますが、ちょっと僕からも質問いいですか。事業メニューの2番目に例えば地球温暖化対策の推進というものがあるんですけども、これは世界で取り組んでいかなければならないものなんだと思いますが、具体的に何なんだろうなあと。この資料4を見るとあんまり見えてこないんですよ。例えばこの地球温暖化対策の推進ということにまじめに取り組むっていうぐらいでないとう当分新しい庁舎を造るとかっていう話をしにくくなるというような気がするんですが。

#### 事務局

すいません、実は地球温暖化対策の推進に関することにつきましては、全地球規模の話でございまして、温室効果ガスの排出などに関する施策の推進ということで、市の方では地球温暖化防止実行計画の策定あるいは公表をですね将来的には検討していきたいと、近い将来においては現在は今調査・研究あるいはそのようなことを進めながら将来的にはそれに向けていきたいとそういうことでございます。

#### 委員

ちょっとお聞きしますけど、黒部市の環境課は富山県に環境財団っていうのがあるでしょ。これは積極的に地球温暖化対策のね、一応推進をやっとるしね、何か運動をしてるみたいですね。特に温暖化に関連をして昨年、一昨年かな、石田小学校の6年生か何かに地球温暖化の例えば小さいことだけど家庭の電気を止めるとかそういうようなことをですね、そういう経過があると聞いてるんだけども。

#### 事務局

現在ですね、京都議定書の絡みでですね、チームマイナス6%ということですね、富山県では富山エコライフ**アクトテン**ということで、節水とかですね、10項目ほど作り

まして、現在取り組んでおります。住民に対する啓発活動ということで、10項目節水とかですね節電とかですね、そのような10項目、6項目プラス4項目ということで富山県独自で先程委員さんがおっしゃられましたようなそういうようなことについて今現在取り組んでおります。

#### 委員

環境課の方でこれは別かもこれに関連して何かそういう事業を展開しているというね。

#### 事務局

そうですね。ちょっと下の方にちょっと場所はちょっとあれなんです、ISO14001の方ですね、行政サイドでも取り組んでおりますし、市民に対しましてもそういう県とタイアップしながら同じような啓発活動はやっております。

#### 委員

この14001とか役所の電気を早く消すとか、無駄な電気をね実際やとられるわけだけど、資格とってですから、あとは展開するのは小・中学生ぐらいにね展開をしていけば、やっぱり家庭で、企業というのはね温暖化についていろいろ規制できるけれども、家庭というのはなかなか難しいということ。だからやっぱり小・中学生を中心に家庭での温暖化防止の対策をね、進めていくっていうのはね、非常に肝要じゃないかと思うんで、今後その辺の取り組みっていうのを何か。

#### 事務局

そうですね。先程委員さんおっしゃいましたように、今年につきましても県と市がタイアップいたしまして石田で青少年を対象に実施しております。

#### 委員

ちょっと前後しますけども、前後っていうかこの3番の森林環境の保全と活用の項目に該当するかどうか、今ちょっと話題になっているのは森林浴というのがあるんですねえ、森林浴。健康志向の面からいって森林浴の活用というのは項目のこの辺に入れる余地はないんですか。森林浴というまあね非常にメニューの中に事業メニューの中に。

#### 事務局

先程の委員さんからも言われた中に森林浴とそれと一緒に入れてもよろしいんじゃないかと思えます。

#### 委員

保健保養地としての中ですね。

#### 事務局

そうですね、はい。その中に入ってるんじゃないかというふうに自分は思います。

## 委員

この細かいところに出てますけれども、もう一つね、やっぱり森林浴はこの中に網羅されてるといえばそれまでなんですけども、もう一つはね、今特にこれはマイナスイオンですね、健康の面においてマイナスイオンを発生するという森林はね、この提唱者っていうのは高桜先生ですか、あの人がよく主張しているはずですね。森林浴、だいたい山の2,000mぐらいが一番いいんだと。その次は滝なんだと。それからせせらぎもマイナスイオンを発生して体内の活性化しイオンを除去してくれると。まあこういうことからね、マイナスイオンっていうのはここシートの方に、ステップの方ですか出てますけれども、マイナスイオンとかあるいは森林浴という項目を入れると多くなりますかね。その辺また検討していただきたいと思います。以上です。

## 委員

よろしいですか、すいません、何回も。一つ整理しなきゃいけない、今ほどでてる地球温暖化対策とか地球全体としても非常に極めて重要な問題ですね。だからそういった意味では重点項目に挙げなきゃいけないものなんでしょうけども、市の黒部市とした場合にじゃどうかっていうことで、それに重点項目とした、でも当然取り組まなきゃいけないことだというような整理の仕方が必要だというふうに思います。それとあと事業メニュー、あれもこれもやりたいんだけど、全てできる財政状況に恐らく今後もならないでしょうから、重点項目をある程度絞り込むというのも当然だと思います。その絞り込む時には、この今挙げたものが適切かどうかっていうのは、よくやっぱりこの中で議論すべきことだというふうに思います。その時に、さっきも出てましたけど、本当に財政見通しっていうものがどうなるのかっていうものがなくしてやっぱり自分の会社の経営にしたってそう、家庭のことにしたって、自分の10年後、20年後はだいたいこう右肩上がりて給料上がっていくのか、どれくらい収入あるのか、その時にどういったものが新しい家はどうかっていうふうに考えるのに、当然やっぱり自分ところのふところというのは考えますので、その辺の考えなくして事業っていうのは計画しづらいですよ。できるだけ出していただくというふうにおっしゃっていただいていますので、できるだけ早くお示しいただきたいというふうに思います。

一つ水資源活用推進事業のところ、水を活かした企業誘致、商品開発ともう一つ生地なんていうのはこれはもう水を活かしたまちづくり観光やとられると思うんですよ。まちづくりをやられてそれをまあ観光に交流人口の増加につながっているわけで、こういう視点ですごい大事だと思うんですよ。その辺何か入れ込むことができないかっていうのが一つ。それから　さんが言われたその水なんですけど、温泉も水というような捉え方をして、温泉による療養っていいですかね、さっき長野の事例で話されてましたけど、指宿温泉も鹿児島大学と連携してそういったことをやっておられますし、そういった視点っていうのも大事じゃないかなあというふうに思います。それと黒部川の特徴として私の記憶では、流域面積あたりの崩壊が一番日本で最大の川じゃないんですかね。何かそういうような極めてそういった特徴をもってます。黒部川はダムがいくつもあります。決してあれば土砂管理のためのダムではなくて。そういった意味でもこう土砂管理っていうも

のをやっぱりもうちょっと日本一やっぱり崩壊してるところですからね。そういう対策が必要じゃないかということと、もう一つ同じことを違う観点で戦略的に捉えますと、やっぱり樺平っていうのはこれからの観光、今もそうですけどこの新黒部市の観光にとって非常に重要な拠点といいますか、大事な、これは立山・黒部を愛する会でも祖母谷っていうのはこれから注目していかなきゃいけないという話でてますが、あそこを今国交省さんの方で、たまたま今日は来ておられないので私も言いやすいんですけども、国交省さんの方で管理していただけてますけども、これはやっぱり砂防事業やってますから管理してもらってるんですが、それがやっぱりじゃ黒部市で不要、要らないということで撤退されたあと、これを黒部市であと管理せよとなった時に、年間すさまじい金がかかってしまう。いや戦略的な意味でいうと、あそこはやっぱり国交省さんの方でしっかり管理してもらうように、してもらうことが黒部市にとって非常に財政的にも助かるし、だからやっぱり観光事業にとっても非常に大きくプラスになると思うんですね。そういったところをやっぱりしっかり入れ込むことが大事じゃないかなあというふうに思います。私の意見はそれだけです。

部会長

はい。

委員

すいません、ちょっと自然エネルギーの方なんですけど、最後の方ですけども、下水道の汚泥のバイオマスエネルギー、この事業ですか。これは実は当の昔になってるのかなあと私誤解してたんです。それで、今こういう問題が出てきたようですけども、これは当然だと思しますので、早くこれに対しては、特に重点的にやっぱり取り組んで、これを生活の方の循環の中に、これはもう堆肥とかそういうものとかありますので、その辺ぜひ重点的に早く取り組んでいただけたらと思います。それから小規模の水力って、水のところで黒部ダムはダムで水力発電ですけれども、もっと小さな流れを利用する水利用のエネルギーは今現在も多分琵琶湖あたりのどっかあそこの辺の大学なんかでも研究されてもうそろそろ具体化される時期だというふうに聞いておりますが、そこら辺もぜひダムのエネルギーも何ですけど、こういう小さな水力の発電っていうんでしょうか、そういうのも研究開発もぜひもっと重点的に出していただくと。何か石油がだんだん高くなっちゃって。いろいろエネルギーの問題もでておりますんで、地球温暖化の問題もありますのでぜひ自然のエネルギーも利用したことを考えていただきたいと思いますので、特にこの最後もなんですけど、重点的に考えていただければというふうに重点度最も大きいじゃないかなと思いますので、よろしく願いいたします。

委員

それに関連してねちょっとお聞きしたいんですけど、いわゆる電力会社ね、電力会社は火力発電とかね水力発電とかやってんですけど、火力発電とか水力発電のコストが高いということで、原子力発電にシフトを換えてるような気がするんだよね。関西電力なんか特に。原子力発電というのは危険性はあるけれども一番クリーンだといわれてるわけ。それは行政の方は今後ね 10 年、20 年の内に電力会社がね、どこら辺にウエイトを置いてね電力需

給を補っていくのか、何か方向性みたいなことを知っておられたらちょっとお聞きしたいなと思います。どうですか。

地球温暖化との関連で危険だけでも原子力発電の推進というのよね。

委員

どっちかという太陽光っていうか。

委員

太陽光はまあ家庭のね。

委員

いや大きい、大きい。

委員

大きいです、まあ大きい。

委員

この北陸で黒部で太陽光は今市の方で使ってらっしゃいますね。あれは一体経済的にちゃんとペイしてるんですか。どうなんでしょう。私すごくそれ悩んでるんですよ。自分自身もやりたいと思ってるから。

委員

荻生のさんの方でも結構何名かやってるね。太陽光。

事務局

すいません、太陽光につきましては、特公賃住宅の方でやってますが、おそらく現状の施設は60年間もてばペイする予定ですが、果たして60年もつかどうかは分からないので、多分ペイはしないと思います。

委員

だけど余力した電力は関西電力が買ってくれるわけでしょ。

事務局

北電ですね。毎年瞬間的に上がれば自動的になるんですけど。

委員

あまり経済的なものでは。

委員

そういうと分岐点があつてね。1カ月家庭で何か2万ぐらい使っているような家庭だと

一度に300万か400万とかね、一度に投資するのが何か高いんですね。だから2万以下のところだったら難しいみたいなんです。

#### 委員

左岸土地改良区でミニ水力発電を試験的にやってみようでないかという話がぼちぼち理事長を中心にして話が出ておるんですけど、何いうても予算的な関係があるんもんだから頓挫しているという状況ですね。

#### 委員

ありゃ前後しますけど、このあれはこの振興計画というのはあまり予算考えなくてもいいんじゃないかと、ねえ。極端な話だけれどもそこまで考えていわゆる投資をするわけでしょ、ね。予算の裏付けなくてフランク的にちょっとね。まあ全く考えないわけでもないけれどもねえ、あまりそこまで神経使う必要ないんじゃないかという理解の仕方してるわけだけれども、どうですかその辺は。

#### 委員

いいですか。以前はそれで良かったと思うんですけども、やっぱりこれからのまさに市民が主役になっていただきながらやっていく時には、やっぱり自分のこととして、行政の予算は行政の予算ということじゃなくて、やっぱり自分達の金だっていう観点でやっていかなきゃいけないですから、ある程度は必要じゃないですかね。

#### 部会長

やっぱり黒部川っていうことを考えた時に、ダムとか発電とかっていうのは避けて通れない問題だと思ってます。

原子力発電の話も出ましたけども、基本的に水力が一番扱いやすいコントロールしやすい電力なので、完全に撤退するということはまずないんじゃないかなという気はしてるんですけども、たださっき言いましたが、100年というもので考えると、何かかなり大掛かりな工事が必要になってくるのは間違いないですね。その辺までちょっと見据えてるよというような感じが出てくれば、何かこの自然と共生していうまさにこの黒部川として文化を創造すると。そういう形になってくれるんじゃないかなという気がしてます。あとまあ確かに観光のところから何かこっちへ引っ張ってきたいような項目もいろいろあるんですけど、その辺の調整は難しいという理解でいいんですか。

#### 事務局

再度こちらの方で検討をさせていただきたいと思いますので、だいぶ時間も経過しておりますので、部会長さんぜひ意見・提言書あたりも同封させていただいておりますので、その辺でまた思いをお書きいただき、ぜひご提出をいただければ改めてこちらの方でまた再度検討させていただきたいということをお願いしたいと思います。

#### 部会長

時間がだいぶ押してきてるんですが、どうしてもということがあれば。

#### 委員

今水力発電のこと、黒部川のことでした。原子力発電のこともでましたんですけども、ちょっと世界的なスケールっておかしいんですけども、その地球上で最後のエネルギーは何かというと水力だっていう話がある。いや専門家の方がですよ。ちょっとBSテレビを見てました時に、滝の問題が出ておりまして、ナイアガラの滝とかイグアナスの滝とかいろんな滝が、世界に4カ所ぐらい滝があれば世界の水力発電が可能じゃないかという、えってというような話を聞きまして、最後に残るのは水力だと。安全ですしということでもありますので、この黒部川の要するに発電を大事にしながら今ここに記する小規模の水力発電でありますので、現在多分滋賀県のどっかの大学だったと思いますけども、もう開発しとられますので、そこらあたりも考えながら今後この水の流れですね、いろいろ用水の流れありますので、それをぜひ今後利用していただくことと、先程も言いましたように、バイオマスのエネルギーとの関連をぜひ重点的にやっていただきたいということを最後にお願ひします。

#### 部会長

自分の方からもこの自然エネルギーの利活用という項目の中に、いわゆる発電が組み込まれていない形になっているので、何かの形で入れればいいのかと。

#### 事務局

すいません。

#### 部会長

どうぞ。

#### 事務局

その新エネルギーの利活用の中には、例えば地熱とか太陽光とかですね、やはりエネルギー利用するということで発電ということも考えております。当然バイオマス利用ということではありますが、それについても最終的にはエネルギーがバイオガスがたくさん出ればですね、当然発電にもっていくといったようなことも視野に入れて研究していきたいと思っております。

#### 部会長

小規模という言葉はとるわけにいかんのかな。

#### 事務局

すいません、市町村でやれるのはマイクロ発電、一番身近でやれますし、また取っ掛かりやすいと。今委員さん言われましたように、即座にエネルギーをできるのはこれじゃないかなあと思っております。

#### 部会長

他にちょっとないようでしたら協議事項は終わって、その他に移りたいと思います。1番目は所属部会以外に対する意見というふうになってますが。

#### 事務局

少し説明させていただいてよろしいでしょうか。

たいへん熱心にご議論いただいております。たいへん時間も押しまわっております。このその他の所属部会以外の件についてということで、若干説明させていただきたいと思っておりますけども、今現在、第1部会でご審議をいただいております、第1部会としてそれぞれの部会ごとに当然役割りもありますし権限もあるというふうに思っております。しかしながら、所属部会以外のことについて何も言えないのかということにもしたくないという事務局の思いがあります。先般北陸新幹線の新駅周辺整備の促進ですとか新庁舎の建設ということを最重点課題に挙げておりますし、その他11の重点課題ということも整理をさせていただいております。そこで例えば北陸新幹線でしたら第3部会に該当しますし、新庁舎の件につきましては第6部会に位置付けております。それらの件について所属部会以外の方でも意見を言えるという形をぜひとりたいということで、実はご意見があればお聞きしたいなというふうに思っておったわけですけども、時間もだいぶ経過しておりますので、その辺のことは先程の意見提言書、12月15日までをお願いしたいということでございますが、その辺で意見がございましたら記載をしていただき事務局の方へご提出をいただきたいというふうに思っております。もともと所属部会以外のことについてこの第1部会で議論していただくというつもりはないわけでありまして、意見をいただいた場合には、それぞれの部会へこういう意見もございましたということをお伝えをしていきたいということでございます。先程のタウンミーティングのいろんな提言・意見を含めてそれぞれの部会へお伝えをして、それらを踏まえた上で、それぞれの部会でご議論いただくということで進めさせていただきたいというふうに思っております。そういう形でぜひ部会長さん意見提言書の方でお願いしたいと思っております。

#### 部会長

はい、分かりました。

#### 委員

そしたら部会に出された資料はいただけるんですか。第2から第6までの部会に出されてる資料っていうのは我々もいただけるんですか。

#### 事務局

部会の資料ですか。

#### 委員

はい、それなくしては本当に的を得た意見とか質問とかできないですし、これだけです



か。

#### 事務局

今部会ごとに部会の分しかお配りしてない資料は、このシート資料4だけなんです。他は全ての委員の皆さんに共通してお配りしておりますので、資料4も他の部会の方も欲しいということであればお申し付けいただければ送付させていただきたいと思います。

#### 部会長

それでは今後の日程等について。

#### 事務局

はい、それでは今後の日程でございますが、今ほど議論いただいたことを踏まえまして、またさらにこちらの方で検討なり修正を加えさせていただいた上で、次回の部会を開催していただきたいというふうに思っておりますし、また先程から申し上げておりますとおり、基本構想素案の部分につきましても修正それから追加の部分を加えまして、できるだけ早く事前にご提示をし、その件についても部会としてご協議をいただきたいというふうに思っております。そこで年明けになりますけども、1月24・25・26日の3日間で部会を開かせていただきたいというふうに思っております。どの部会が何日かにつきましては部会長とご相談の上、できるだけ早く決定しお知らせをしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上であります。

#### 部会長

はい、では一応これで終了させていただきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

#### 事務局

以上で黒部市総合振興計画審議会第1回第1部会を閉会させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

#### 委員

ありがとうございました。